平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告ヒアリング資料

平成 27 年　8 月

国立大学法人　群馬大学

Ⅰ．特に重点的に取り組んだ事項

教　育

アクティブラーニングの積極的導入

《P.4》

○　学生が主体的に問題を発見し解決していく能動的な学修を行うため、　中央図書館及び医学図書館にラーニングコモンズを整備し、授業関連書籍の配架等を行った。（3キャンパス全ての図書館にラーニングコモンズが整備された。）

【図書館来館者数の推移】　（単位:延人数）

	H22	H23	H24	H25	H26
中央図書館	182,113	184,864	185,256	189,486	198,644
医学図書館	158,725	140,224	123,820	126,724	135,878
理工学図書館	158,984	139,236	74,328	213,722	211,791
合計	499,822	464,324	383,404	529,932	546,313

※H24理工学図書館来館者数の減少は、改修工事による。

○　また、中央図書館ラーニングコモンズでは、特設コーナーを設け大学院生による学修相談などの学修支援を行っている。
（相談件数 47件）

グローバル人材の育成

《P.4》

○　国際社会において活躍できるトップリーダーを育成するため、医学部、理工学部学生を対象としたグローバルフロンティアリーダー育成コースを開設しており、国際コミュニケーション能力を育成するとともに、早期大学院進学に向けて、学部段階から先端研究に接する環境を整備している。

「グローバルフロンティアリーダー」コース受講者の進路状況等

	学　部	進路区分等	人数	うち早期卒業	進学率
1期生（H21入学）	工学部	大学院進学	17	5	94.4%
		就　　職	1	0	
		計	18	5	
2期生（H22入学）	工学部	大学院進学	15	4	78.9%
		就　　職	4	0	
		計	19	4	
3期生（H23入学）	工学部	大学院進学	15	3	83.3%
		就　　職	3	0	
		計	18	3	
4期生（H24入学）	工学部	大学院進学	2	2	－
		受講中	15	0	
		計	17	2	
5期生（H25入学）	医学部	受講中	5		
	理工学部	受講中	12		
		計	17		
6期生（H26入学）	医学部	受講中	10		
	理工学部	受講中	18		
		計	28		

※4期生までは、GFLの前身である「科学技術人材養成等委託事業」FLCとして実施

○　平成27年度より、教育・社情GFLを開設

研　究

元素科学の拠点形成

《P.6》

○　理工学府の強みである炭素・ケイ素などの元素科学に立脚し、低炭素社会実現に向けた基礎及び応用研究を展開するとともに、学術の高度化・グローバル化を推進するための拠点として、機能強化。

ケイ素科学国際教育研究センター

＋

担当・客員教員による組織
※新たに、平成26年度中に主担当教員（准教授1名、助教1名）を配置

カーボン材料創生研究会

改組

※新たに、主担当教員（教授1名）を配置
※戦略的研究課題を進めるために、担当教員（教授5名）を配置

平成27年度

元素科学国際教育研究センター
炭素・ケイ素などの元素科学に立脚し、低炭素社会実現に向けた基礎及び応用研究を展開

海外連携機関からの誘致（ブランチ研究室の創設）。
学術の進展・高度化。研究成果の社会還元

医理工生命医科学融合医療イノベーションの創出

《P.6》

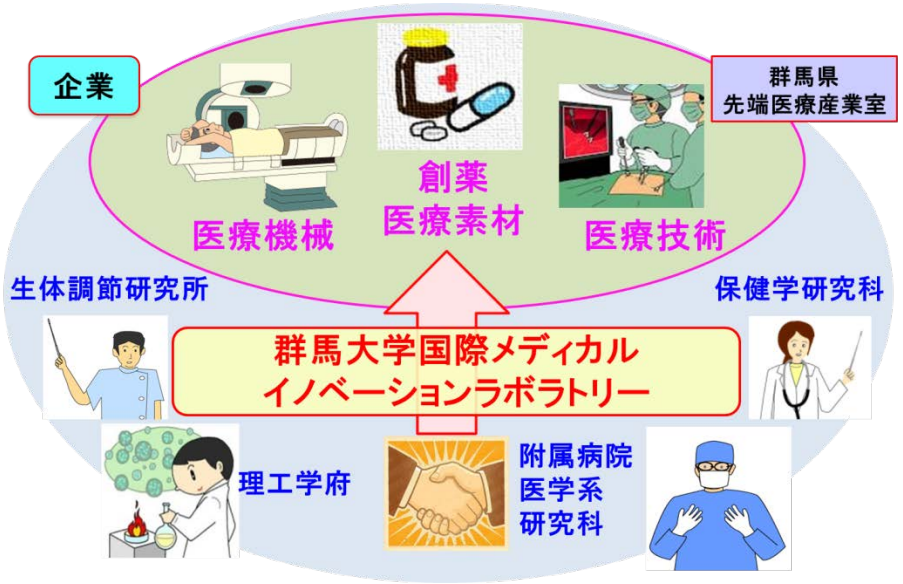
○ 生命医科学と理工学が融合した国際的研究・教育拠点を構築し、従来の枠を超える画期的な医療技術、医療機器及び医薬品の開発を推進。

○　医療ニーズ立脚型の研究課題を学内から公募し、医療機械開発、創薬等、計35課題を採択した。

＜採択課題例＞

医療機械開発　「加圧光センサを用いた強皮症の末梢循環障害評価装置の開発」

医理工生命医科学融合医療イノベーションプロジェクト



国際交流

学生の海外派遣を支援

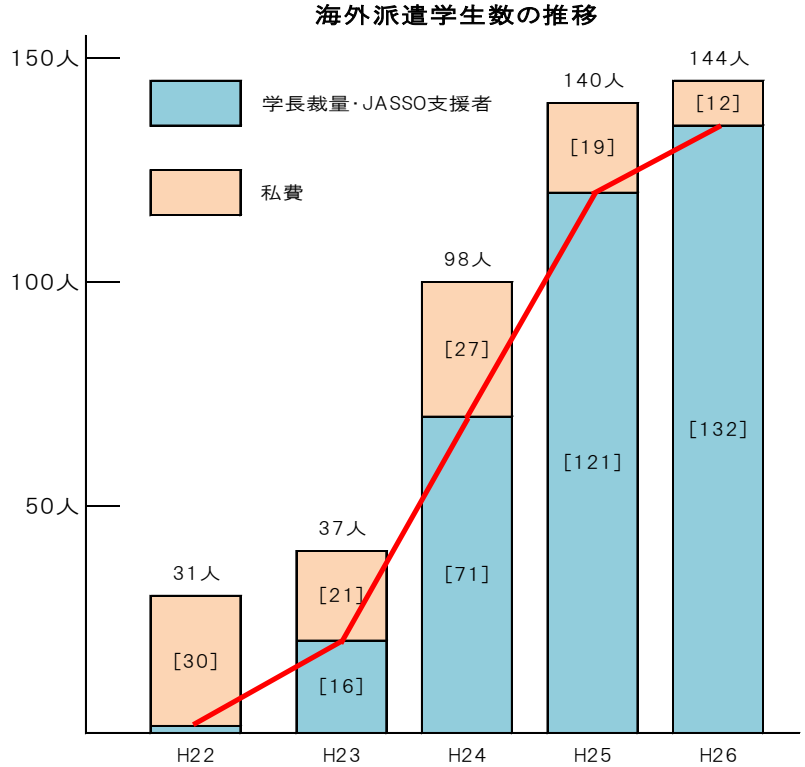
《P.7》

大学間協定の締結校を中心に本学学生の海外派遣のため、以下のプログラム等を実施。

〇異文化理解プログラム(1単位)
泰日工業大学(タイ)短期研修プログラム 1名

〇英語研修プログラム(2単位)
サンディエゴ州立大学 夏期4名
ウーロンゴン大学 夏期2名、春期1名

〇GFL短期留学プログラム(2単位)
マッコリー大学 24名



地域貢献

地域に根付いた取組み

《P.7》

日本経済新聞社「全国大学の地域貢献度調査」のランキングにおいて、全国総合2位を獲得。
「グローカル」分野では、全国1位。

〇子ども体験教室「ちびっこ大学」
子どもたちが体験的学習を通じて、五感で学問の面白さ、奥深さを実感してもらい、将来の日本、世界を担う人材の若い芽を育むことを目的に実施しており、これまでの10回の開催で、参加者は延べ6万人を突破した。

〇「多文化共生推進士」事業
社会的・文化的に多様な住民を抱える群馬県において、「多文化共生」をキーワードに地域活性化に取り組む人材を育成するため、群馬県と連携して履修プログラムを実施している。なお、プログラム修了者は、多文化共生推進士として認定され、平成26年度末には、10人が認定されている。

〇デジタルを活かすアナログナレッジ養成拠点プログラム
本学とNPO法人が連携して地域産業の振興に協力するため、企業の設計者・技術者を対象として講習を実施している。
平成26年度は、24社、281人の参加があった。なお、平成26年度末までに、延べ2,608人の参加となっている。

附属病院

～ 医療事故問題を踏まえた 医療安全への取組み強化 ～

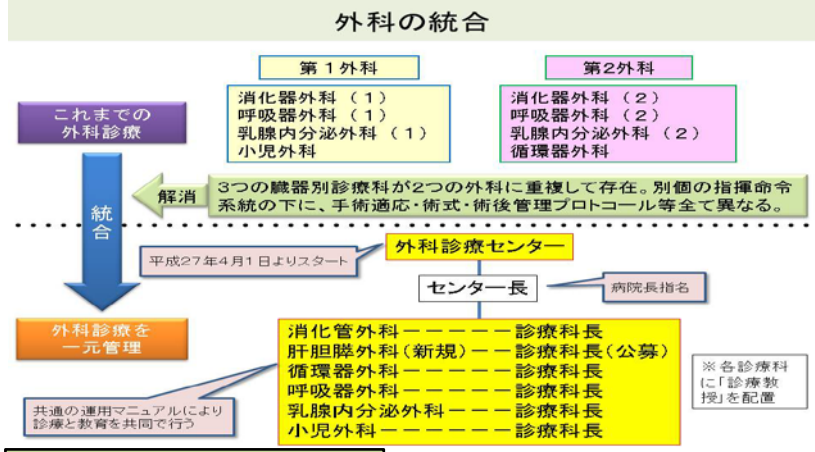
《P.9》

群馬大学 GUNMA UNIVERSITY

診療体制の見直し

ナンバー外科体制を見直し、臓器別外科診療科に再編成した。

全ての臓器別診療科は、専門性に偏ることなく、共通の業務・連携マニュアルにより、医療技術とともに医療倫理、情報管理等、適正な医療の展開に不可欠な教育を徹底して行うこととした。



安全管理体制の強化

医療事故発生時等に即時に対応できる体制を整えることを目的に「医療安全管理部」を「医療の質・安全管理部」に改組し、専任のゼネナルリスクマネージャー(医師)を増員し、人的体制についても強化を図った。

また、インフォームドコンセントの質の向上のための説明同意文書の記載内容と書式を統一し、審査、承認を行う体制を整えた。

死亡症例検証委員会による迅速な安全対策

全死亡退院症例を専門的に検証し、病院として早急に行うべき改善策を直接病院長と病院コンプライアンス推進室に提案する体制を整備し、医療安全上の対策が遅滞なく実行されるようにした。

倫理審査・教育体制の整備

各種倫理審査委員会の規程を見直し、審議対象を明確に規定するとともに、申請フローチャートを作成し、手続きを明確化した。また、承認した医療行為の実施結果の報告を徹底し、検証体制を確保した。

保険診療の理解と適正化を図るため、保険診療管理センターを設置し、適切な保険診療を管理する体制を構築した。

さらに、医療安全等に関する法令等を全職員が遵守するよう、コンプライアンス推進計画の立案、教育・研修の企画と管理を行う病院コンプライアンス推進室の設置を決定した。

附属学校

子ども総合サポートセンターの取組

《P.10》

○ 不登校・発達障害等の問題を抱え教育の現場で適応困難な子どもたちに対して、地域の学校に対する支援を行った。

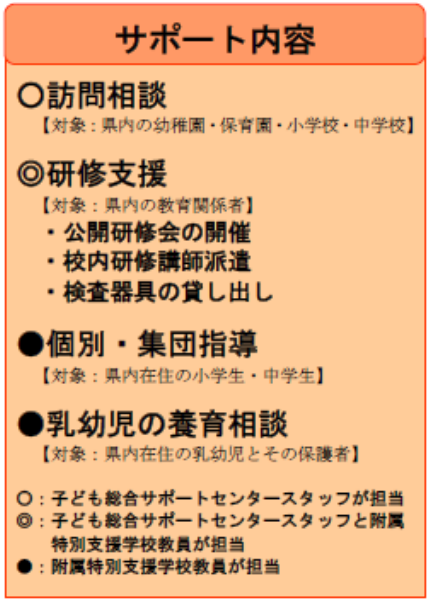
・公開講座(4日間)、事例検討型ワークショップ(3日間)計7回の研修会[延べ157名参加]

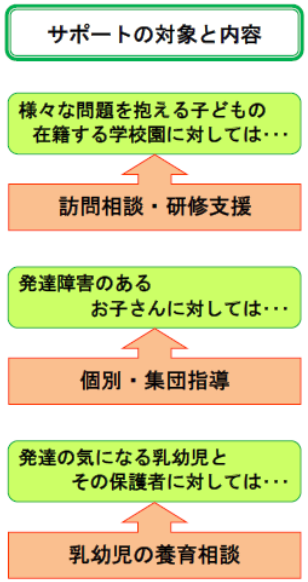
・個別・グループ・集団指導：小学生8名、中学生4名が通所し、事前面談の実施後、15回指導・支援

・保護者や担任を対象とした研修会(2回)[延べ54名参加]

・就学前の幼児と保護者を対象とした養育相談(3ケース)[延べ9回]

・附属小学校での公開研修会に向け、体育科・英語活動の授業をユニバーサルデザインに基づき実施。





共同利用・共同研究拠点

生体調節研究所

《P.11》

平成22年度に、内分泌・代謝学における全国の共同利用・共同研究拠点に認定され、国内外の内分泌研究者に研究ツールを提供し、共同研究を推進している。

○ 平成26年度においては、重点課題枠として、糖尿病・肥満研究、若手・女性研究者、外国研究者を設け、総計36件の研究課題を採択し、共同研究を実施。

○ 平成26年11月には国際シンポジウム「Homeostasis through development ,life, and diseasesシンポジウム」を開催した。 [参加者：140名]
(うち外国人：アメリカ、フランス他12名)

平成26年度「内分泌・代謝学共同研究拠点」共同研究採択一覧

課題区分	採択件数	共同研究者所属機関
重点研究課題(1)「糖尿病、肥満関連の研究課題」	2件	信州大学 他
重点研究課題(2)「若手研究者、女性研究者の研究課題」	4件	(独)放射線医学総合研究所 他
重点研究課題(3)「外国研究者の研究課題」	3件	釜山国立大学 他
通常研究課題	27件	(独)国立成育医療研究センター 他
計	36件	

戦略的・意欲的な計画の取組状況

重粒子線治療研究の推進等

《P.13》

教育面

大学院医学系研究科博士課程に設置した「重粒子線医工連携コース」に9名を受け入れ、コース履修生は、合計21名となった。

○アドバイザリーボード等の外部研究者を招へいし、履修生の研究発表に対しての助言・指導、特別講演等

○日本学術振興会による中間評価において「A」評価

研究面

○微小重イオンビームの位置並びに線量測定のための測定器を開発するとともに、微小病変を照射するための小照射野を形成した。

○人体用のコンプトンカメラ試験器により、人体コンプトン画像の取得に成功した。

○臨床に用いられる低エネルギー放射RIのTc-99mからポジトロン高エネルギー領域まで、臨床レベルでの画質が採取できることを実証した。

診療面

○3次元積層照射やパッチ照射法を行い、より有害事象軽減と大腫瘍への適応拡大が可能となった。

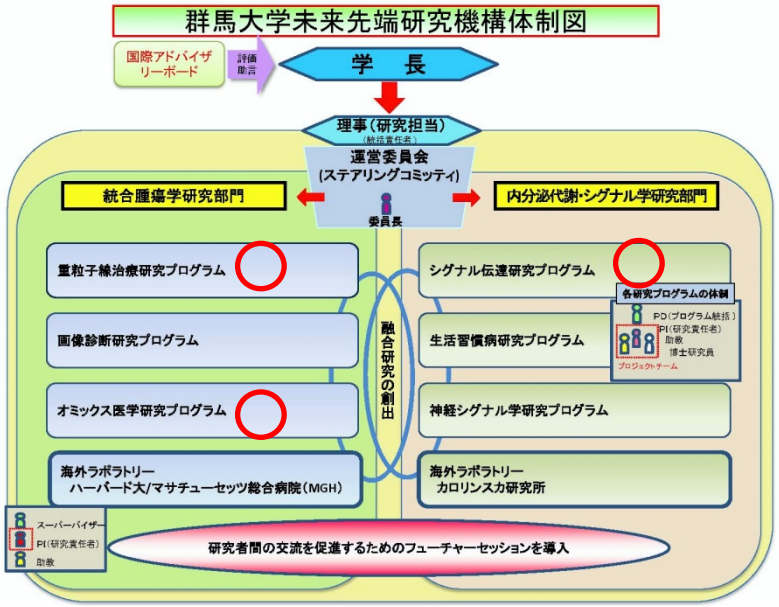
○治療患者数は、H27.3末までに、延べ1,613名に達しており、年間450名の治療目標を達成した。

○国内外の医療機関からの研修生を受け入れたほか、国際トレーニングコースを放医研と共催した。
（12ヵ国、52名参加）

未来先端研究機構による研究重点化

《P.14》

○　本学の強み（統合腫瘍学、内分泌代謝・シグナル学）を、更に発展させる組織として、未来先端研究機構を設置した。



○平成26年度においては、国際公募による研究者の採用を行うなど、3プログラムを先行して開始した。

○また、「統合腫瘍学研究部門」においては、米国ハーバード大学から1人の研究者を招へいし、国際共同研究を行っている。

○このほか、平成27年2月に国際シンポジウムを開催し、国内外の研究者による講演が行われた。

機能強化に向けての取組み

《P.15》

ガバナンス改革

教員組織を一元化した「学術研究院」の活用、「執行役員会議」による全学的視点からの教員人事等を着実に実施した。

教員の年俸制適用者の拡充

教育・研究活動を活性化し優秀な人材を確保するため、業績評価に応じた弾力的な給与の運用を可能とする年俸制を導入した。

未来先端研究機構教員への導入後、その他の学部等教員へも適用範囲を拡大した。

<平成26年度実績>

未来先端研究機構　5名適用

その他の学部等　　11名適用

（計画を上回って実施したと自己評価）

個人情報保護

《P.36》

○個人情報保護管理者に対し、個人情報に係るアクセス制御、アクセス記録の保存等について、通知により周知徹底を図った。

○附属小学校においては、独自の取組みとして「個人情報管理ハンドブック」による注意喚起、また、教員会議において、研修会を実施し個人情報管理について周知徹底した。

指摘事項への対応状況

群馬大学 GUNMA UNIVERSITY

研究活動等不正防止

《P.35》

○　新規採用教員に対する取組

・「教職員行動規範」、「研究費ハンドブック」を配布するなど、コンプライアンス（法令遵守）に対する心構えの徹底を図った。

・　採用時において、助成金を受けている者に対する個人経理の有無の確認を徹底した。

○　在職者に対する取組

・　全教職員対象の「コンプライアンス意識調査」の結果を教育研究評議会に報告するとともに、さらなる意識の浸透を図った。

○　その他、以下の取組を実施。

（1）諸規程等の制定

・公正な研究活動及び適正な資金執行規程

・研究活動等における不正に対する措置に関する内規

・不正調査に関する委員会内規

（2）配布物等による周知

・「研究活動上の不正行為等防止への取組み」（本学ホームページ）に掲載及び文書で教職員へ周知。

（3）不正防止活動説明会の開催

・荒牧キャンパス（9/30、参加213人）

・昭和キャンパス（9/25、参加244人）

・桐生キャンパス（9/29、参加310人）